

1、自己評価実施について

○実施期間 2022年1月24日～3月31日

○回答数 保護者評価 14 (17家庭中)

スタッフ自己評価 18 (18人中)

○回答数内訳 別紙

2、評価の分析

【保護者の評価】

○施設・設備の整備について

活動場所の面積では、わからないが3名。指導員の配置に関して、わからないが2名、いいえが1名。施設・備品の損壊ではわからないが3名。他事業所などとの比較対象がないこと、保護者によっては、直接活動の様子を見る機会が取れないことが理由と思われる。

また、感染症対策で、保護者が活動を見られる行事を設けるのが困難で、そういった行事を行っていないことも理由と思われる。指導員の配置に関しては、職員の体制により、保護者に送迎の時間変更など協力を申し出ていることから、十分に配置されていないと受け止めているものと思われる。

○活動の全体状況の整備

これまでに比べて、わからないという回答が増えている。災害・感染症対策では避難訓練などの実施、感染症の対応や罹患発生時のアナウンスなどしているが、取り組みが十分に浸透していないことが理由と思われる。個人情報に関しては、実際に必要になる事態がなく、確認などのやり取りが発生しない家庭もあるので、まだ、どのように取り扱われているかを実感していない方がいることも理由と思われる。

安心して通わせられるか、で、わからないが1名、子どもに応じた活動では、いいえが1名、活動に満足では、わからないが1名。長期活動中での屋外の活動や、運動を中心とした活動を希望する保護者の意見もあり、そうした活動も実施はしているが十分と感じられていないことが理由と思われる。具体的な記述がない中ではあるが、保護者に不安があるということは重く受け止めたい。

○保護者との関係づくり

複数の項目でわからないがあるが、意見欄にある「苦情・意見を申し立てたことがないので」というものから、実際にそうしたことが必要な状況になったことがないので、実感していないということがわからないという回答になっていると思われる。

また、保護者会は今年度実施してきたものの、参加できない家庭や、親子行事なども実施できていないことも影響していると思われる。

【スタッフ自己評価】

○施設・設備の整備

各項目、わからない、いいえが複数名、利用定員と施設の面積、職員の配置人数での、わからないに

関しては、他施設を知らず比較対照がないためと思われる。

備品の損壊・故障などについては、意見欄にある、備品の配置や都度の修理はしているが、十分かはわからない、十分ではないという認識があると思われる。

部外者の侵入に関しては、スタッフでの配慮はしているが、換気のために窓やドアを開放していることもあり、未然に防ぐには不十分という評価。

○活動の全体状況の整備

虐待防止マニュアル、個人情報に対しては各項目、わからない・いいえが数名いる。各種マニュアル等は策定しているが、周知が十分でないこと。研修については、行っているが、受けられるスタッフとそうでないスタッフがいることなどから、自身で十分に理解・実践が出来ているかわからない、という評価になっているものと思われる。

○実践的な力量の向上

わからないという評価が多いが、意見では前向きに子どもたちに向き合おうとしている意見が多く、肯定的な事実の意味付けや、大人の育ちの項目に関して、わからないの意見が多いのも、自身の支援を謙虚に評価している結果と思われる。ただし、個別支援計画の作成については、作成のたびに全スタッフに周知し、記録用のファイルに添付するなどの対応をしているが、まだ十分ではないと言える。

外部の研修会については意見欄にもある通り、研修・報告会の機会は減っており、止むを得ない評価と言える

○保護者との関係づくり

パートのスタッフは入会時の面接や、会報の発行など、運営、広報にかかわる業務はおこなっていないので、わからないという評価が多いことになっていると思われる。

保護者の思いや願いの汲み取りでは、意見欄にある通り直接会う機会・時間が限られているので、その中で保護者との共感や理解を得るのが難しいと感じるスタッフも多く、汲み取ろうとしているが、結果が明確ではないものなので、わからないという評価になっているものと思われる

保護者の父母会への協力、親子・家族行事については昨年度同様コロナ禍の影響もあり、中止や規模の縮小、変更が多く、意見にある難しい状況がそのまま反映されているものと思われる

○関係者・関係機関との連携

相談支援事業所、学校との支援会議、協力医療機関、卒後の諸機関、放課後活動の連絡会での情報共有がわからないという評価が多い。子どもたちの情報は伝えているが、どことのどんなやりとりでの情報なのか、までは具体的に伝えていないので、どんな関係者・機関があるかわからないことが理由と思われる。

特に学校行事や地域づくりなど、対外的なことに関しては受け入れ側の都合も関わり、やり易いと言える状況になく、わからない、いいえという意見が多く出るのもやむを得ないと考え

協力医療機関に関しては、あるのだが、利用する機会がなかったことでわからないという意見になっていると思われる。

3、改善目標

○保護者の評価

活動そのものに関しては虐待の不安はなく、ほとんどの保護者が評価してくれている。しかし、わからないという評価も増えているので、評価の分析にもある、子どもを安心して送り出せないような不安が生じないように、日々の活動の充実はもちろん、一人一人の子どもを軸にして、保護者とスタッフで認識を共有できるように、保護者会や面談だけでなく、日常的な送迎時の伝え方など、限られた時間の中でも、様子や変化などを簡潔にでも伝えあえるコミュニケーションの機会として充実させていく。

また、社会的な状況に合わせて、可能な限り親子行事など実施していくことで、保護者同士でのコミュニケーションが取れる機会も確保し、保護者の横のつながりを深め、スタッフとだけでなく保護者同士でも子育ての悩みや喜びを言いあえる関係づくりにつなげていく。

○スタッフ自己評価

施設面での整備については、現在破損しても飛散しない蛍光灯の設備への改修を進めている。備品の損壊についても、月に1回程度スタッフで施設整備を行い、留意点などを確認・改修しているが、シフトによっては実施できないスタッフもいるので、書面と口頭での申し送りをして、結果をスタッフ全体で周知できるようにする。

部外者の侵入については、感染症対策のための開放は避けられないので、来訪者対応マニュアルの整備、防犯グッズの整備を実施

活動の全体状況の整備については、シフト上で参加が難しいスタッフも訓練、研修ができるように全体の研修だけでなく、個別での実施もしていく。また、法人と事業所の組織図なども作成して、周知していく。

実践的な力量の向上については、子どもの課題やスタッフ同士の支援の価値観を共有する機会として、前述と同様研修などへ参加できる機会を可能な限り増やして、集団での議論を通して、子どもへの理解と支援への自信が深まっていくように取り組んでいく。

保護者との関係づくりについては、日常にかかわれないこともあるので、新型コロナウイルス感染症の流行の状況も鑑みながら、スタッフと保護者が顔見知りになれる機会を増やしていく。

関係者・関係機関との連携については、子どもの情報共有の際、こういった関係者からのものであるかも伝えることで、直接関わっていないスタッフでも、関係者との連携が自覚出来るように努める。